

地域とともにある
学校づくり

えべつ型コミュニティ・スクール

えべつCS通信

江別市教育委員会 教育部 総務課



「えべつ型コミュニティ・スクール」のアンケート結果

えべつ型コミュニティ・スクールが始まって、2年が経過し、学校運営委員の1回目の任期が3月で満了を迎えました。そこで、今後の参考にするために、各学校の学校運営委員長を務めていただいた方に、アンケートに答えていただきました。（回収は、25校中22校）

評価基準

4→大変よかった。or 優れた実績を上げたと思う。 3→よかった。or 達成できたと思う。
2→あまりよくなかった。or 達成されなかったが、達成に近い実績を上げたと思う。
1→よくなかった。or 達成されなかったと思う。

No	内 容	評 価
1	（機能① 学校運営への参画） 学校が抱える諸課題について、熟議（話し合う場）が十分に持てた。	3. 2
2	（機能② 学校支援） 学校支援（各種ボランティアからの支援）については、学校運営委員会に調整の機能が位置付けられているが、その機能を果たしていた。	2. 7
3	（機能③ 学校関係者評価） 学校関係者評価（学校の自己評価を関係者評価）を効果的に行うことができた。	3. 5
4	学校運営委員の構成（人数、推薦分野、男女比等）は、適切であった。	3. 3
5	学校運営委員会の回数（マニュアルでは3回を想定）は、適切であった。	3. 5
6	教育委員会は、「えべつCS通信」を10号（H29年度7号、H30年度3号）発行したが、「えべつ型コミュニティ・スクール」の理解浸透に役立った。	3. 0
7	学校は、保護者・地域に「えべつ型コミュニティ・スクール」の理解を得るために、ホームページや学校だよりなどで情報提供に努めていた。	3. 2
8	（総合評価） 学校運営委員会を設置し、「えべつ型コミュニティ・スクール」を導入した効果があった。 【導入した効果が具体的にあればお書きください。】 主な意見は、次ページ「Ⅰ 具体的な導入効果」をご覧ください。	3. 1
【えべつ型コミュニティ・スクール全般について、要望・意見等がありましたら、お書きください。】 主な意見は、次ページ「Ⅱえべつ型コミュニティ・スクール…の要望・意見等」をご覧ください。		

【参考】学校運営委員会の3つの機能

学校運営への参画

学校が抱える諸課題について話し合う場（熟議）を持ちます。

学校支援

学校支援ボランティアの調整等をします。

学校関係者評価

学校が行う自己評価について評価を行い、学校運営に反映させます。

I 具体的な導入効果



- 地域住民が学校運営に参画する機会が従来よりアップした。
- 地域の要望を話し合い、学校側との連携を深められた。
- 自治会とのつながりを通して地域の要望などを共有できた。
- 学校が抱える諸課題や重点的に取り組んでいる内容についての共通理解が進んだ。
- 学校が抱える問題や取り組んでいることを知ることができて、とても有意義。参加するまではそこまで深く学校や地域の方と話をする機会が無かったが、それぞれのテーマについてそれぞれの立場の人たちと意見交換をすることができてとても貴重な場だった。
- 各校、地域の取り組みを知ること、教員、児童、保護者が自分の環境と照らし合わせて活動を考える良い情報収集の機会となっている。
- もともとPTA活動として地域の方々と交流会を開催していた経緯もあって、より広く開かれた学校と地域で子ども達を見守り育てることの理解は深まり良かった。
- 保護者・地域の協力で、子ども達とともに活動できた。

II えべつ型コミュニティ・スクール全般についての要望・意見等

- 初めての取り組みで、委員の間でも戸惑いが感じられ、十分に機能を果たせたか疑問に感じている。
- 年3回の会議では、1回の会議の比重が重く、当日渡される資料を読み解くことに時間を要し、熟議とまでには至らなかった。会議資料の事前配布を求めるべきだった。
- 「学校支援の調整」については、ほとんどできなかつたと考えている。
- CSについて具体的な事業を策定していただけるとよいかと思う。
- 3つの機能を併せもったCSの取り組みは、価値あるものである。質の向上に向けた情報発信のあり方が課題である。
- 他校の活動がどのようになされているか、交流する機会があるといい。必要に応じて、研修の機会もほしい。
- 校外の住民による生徒の評価などが、より学校に伝わるようにしたい。
- 学校が抱える諸課題について、もう少し深く協議したいと思うこともある。
- 熟議するだけの時間がない。一通りの感がある。しかし、出た意見は、反映されたと思う。学校支援についての位置付けの意味が不明である。
- 地域内には新しい街路・居住区が出来、新しい地域の住民の方々へも引き続き理解を得るため、さらなる理解等を深めるためにも、是非、広報、通信等で持続的な啓発に市の協力もお願いしたいと思う。運営委員も様々なツールや関係を駆使し、学校を少しでも良くするために地域の方々との協働していきたい。
- 今後、児童生徒が期待する具体的な地域支援等のあり方も把握し、協力していくことが大切と考える。
- 不登校生徒への取り組みが消極的。各機関との連携も不足している。



H30.10.12 全国コミュニティ・スクール研究大会 in 三笠の様子から

昨年10月に三笠市で行われた全国大会には、市教委2名、東野幌小1名、文京台小6名が出席し、研修を深めてきました。

いただいた要望、意見等を参考に、学校・家庭・地域が連携・協力して子どもを育てる持続可能な仕組みをもった「えべつ型コミュニティ・スクール」を目指してまいります。

えべつCS通信の1号から10号までは、江別市ホームページでご覧いただけます。